



静岡市立南藁科小学校 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年9月28日(木)



「教科書や動画だけでは理解しにくい所も、
実際に見て触れて体験することで、先人の工夫や大変さを身をもって理解することができました。」

静岡市立南藁科小学校の6年生19人が、「古代の歴史を体験しよう」をテーマに、体験を通して現代と古代の暮らしの違いを知る目的で、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験を行いました。静岡新聞社の取材もあり、活動の様子が翌日の静岡新聞に掲載されました。

土器の分類体験



初めに、縄文土器・弥生土器・須恵器の3種類の完形土器をよく観察して、それぞれの土器の特徴を確認しました。次に、厚さや質感、割れた部分の土の粗さ、色などを見比べて3種類の土器片を分類することができました。



「時代によって土器の特徴が違って面白かった。」



石器の試し切り体験



今まで、教科書や資料集などでしか見たことのない打製石器や磨製石器、黒曜石などを見たり触ったりして、石が古代の暮らしに必要な道具であることを実感し、新聞紙や野菜などが切れることを試しました。石で物が切れるなんて思ってもみなかった子どもたちは、切れ味のすごさに驚いていました。

「想像していた以上によく切れて楽しかった。」



火起こし体験



もみぎり法や弓ぎり法等の火起こし方法を紹介し、舞ぎり法での火起こしの手順を説明しました。子どもたちは、デモンストレーションで簡単に火が起こせたのを見て、それほど大変ではないと思っていたようで、いざやってみると、弾み車を回せなくなるほど疲れてきて、火種を作ることが大変でした。何とか火種を作ることができ、フーフータイムも頑張り、やっと火が起こせました。火が起こると、とてもうれしそうでした。

「昔の人は、火を手に入れることが大変だと分かった。」



先生方の感想

「体験を通して当時の人々の暮らしを知ってもらいたいと思っていました。子どもたちの最後の感想を聞いて、現代の暮らしとの違いに気づけたようでした。教科書や動画だけでは理解しにくい所も、実際に見て触れて体験することで、先人の工夫や大変さを身をもって理解することができました。センターの職員さんは、子どもたちに分かりやすく説明して下さるだけでなく、火起こしの際には大変そうな児童のサポートをして下さりました。ありがとうございました。」

